

社団法人 日本理学療法士協会 富山県士会



会 報 と や ま

今号の内容

平成22年度

No. 4

(通算120号)

総会員数474名 (休会61名)

全132施設

理事会報告	2
地区連絡会だより	3
富山県理学療法士会 平成23年度事業計画(案)	4
平成23年度一般会計収支予算(案)	8
平成23年度特別会計(1)収支予算(案)	10
研修会報告	11
座談会	14
第27回東海北陸理学療法学会の進捗状況	18
新年会開催	18
リレーエッセイ	19
事務局インフォメーション	19
お知らせ	20
編集後記	21
広告案内	21・22



平成22年度 第6回 理事会報告

日 時：平成22年11月30日(金)

場 所：富山市民病院

出席者：塚本 田村 島倉 川合 寺田
堀尾 森山 森田 柴田 池田
滝田 金川(書記)

〈報告事項〉

- 事務局報告：PT協会・他県士会・関連団体からの事務局宛郵送物、会員異動について報告された。
- 第10回循環器講習会活動報告：平成22年10月31日に「糖尿病と虚血性心疾患、大血管疾患について病態把握からリハビリテーションの実際」をテーマに開催された。トピックスとしては「心臓と腎臓の関連」をテーマに講義された。参加者32名であった。
- あすなろ研修会報告：平成22年10月24日に滑川市市民交流プラザにてあすなろ研修会が開催された。講演Ⅰのテーマは「理学療法士法・作業療法士法および関係法規」で参加者60名であった。講演Ⅱのテーマは「学問としての理学療法と研究方法論」で参加者66名であった。症例研究発表会は演題数13名、参加者74名であった。
- 平成22年度代議員臨時総会報告：平成22年11月23日に東京都で開催され、出席した島倉副会長より報告がなされた。総会には、279名中255名の代議員出席。各議案とも多数の賛成で全て採択された。
- 訪問リハ研究会報告：平成22年10月30日に訪問リハ研究会会議が開催された。PTからは金岡先生(リハ.システムウェイ)が出席。その他OT・ST等の参加され、病院、訪問看護ステーション、老人保健施設の立場から、リハビリステーション立ち上げの意見交換がされた。
- 理学療法講習会応用編報告：平成22年11月13・14日に「筋・筋膜性可動域制限と痛みに対する治療」をテーマに開催された。参加者は44名であった。

〈検討事項〉

- 1. 平成23年度事業計画策定指針案：理念、基本・活動・重要活動方針が検討され、次年度の事業計画策定指針案が承認された。
- 2. 富山県士会部員定数について：次年度に向けた各部局の構成員数が検討された。事務部10名、財務部3名、組織部5名、福利厚生部10名、情報管理部13名、学術資料部5～8名、研修管理部10～12名、卒後教育部20～25名、卒前教育部10～12名、業務推進部8名、医療保健部10名、介護保険部15名、福祉事業部15名、保健事業部10名、広報部15名、調査部12名、なお、専門領域研究部は後日検討することで承認された。
- 3. 富山市介護認定審査会・障害程度判定委員会委員候補者：当士会の推薦者が検討され、承認された。
- 4. 高岡市介護認定審査会委員候補者：当士会の推薦者が検討され、承認された。

平成22年度 第7回 理事会報告 (拡大役員会)

日 時：平成23年1月15日(土) 14:00～

場 所：サンシップとやま

出席者：塚本 田村 島倉 寺田 堀尾
森山 増山 池田 福江 荻島
宮原 木内 中谷 仲川 杉谷
中島 高橋 竹中 城前 村中
布上 柴田(孝) 永山(書記)

〈報告事項〉

- 事務局報告：事務局郵送物、公文書発行、会員異動状況等の報告。
- 第27回東海北陸理学療法学術大会について：田村大会長より報告された。平成23年10月29日(土) 30日(日)に富山国際会議場にて、「ここをほぐして医療の源流を探る」をテーマに開催する。

〈検討事項〉

- 1. 平成23年度事業計画案：各部局より主に研修会、会議の計画が報告される。富山県の新人教育プログラム修了率が62.6%と高値で

あるが、専門領域の入会率が乏しい。専門・認定PTへの啓蒙に繋がる研修会が、卒後教育部より計画され、その他研修会についても、日時、場所、テーマ、講師も概ね企画されていた。特別事業では、東海北陸理学療法学術大会の開催、40周年記念事業の準備委員会、また訪問リハビリステーション検討委員会の設置について計画案が提出された。以上の、事業計画について承認された。

2.平成23年度予算案：各部局より報告された。協会主催の研修会については、当士会の予算に計上はされなかったが、今後の検討事項となった。一般会計及び特別会計収支予算案については承認された。

地区連絡会だより

富山北部地区

荒木 悦子(高志リハビリテーション病院)

平成22年12月2日(木)、富山県高志リハビリテーション病院において第2回富山北部地区連絡会を開催しました。

今回は、富山県身体障害者更生相談所の船木美樹子先生から「自立支援法による補装具費支給の原則について」を講演していただきました。身体障害者更生相談所の業務内容、身体障害者手帳の役割や等級表、自立支援法による補装具



講演者 船木先生

支給制度の仕組み・留意点・判定・種目などの内容でした。学生の時にも研修会でも聞いたことのない内容であり、日頃の業務と間接的に関わりがあるにもかかわらず知らなかった分野でしたので参考になりました。また、初めてPTが配属される職場でのご苦労も聞かせていただきました。

参加者は35名であり、小児分野PTの参加もあって、大変有意義でありました。



富山南部地区

池田 裕哉(八尾総合病院)

11月22日に、月読二口店にて、今年度2回目の富山南部地区連絡会を開催しました。参加者は6施設12名でした。自己紹介や近況報告から開始し、お酒を飲みながら情報交換を行いました。また、参加者の中に手相占いを得意とする方もおられ、大いに盛り上がりました。その後には二次会にも行き、非常に充実した会となりました。今後も顔の見える連携を意識して活動していけたらと思います。

富山県理学療法士会 平成23年度事業計画(案)

〈学術局〉

[専門領域研究部]

1. 専門領域研究部会

- (1) 専門領域研究部会(1回開催)平成23年4月
- (2) 専門領域研究部事務会議(10回開催)

2. 研究会活動

(1) 内部障害系研究会

- ① 研究活動
- ② 呼吸器疾患症例検討会開催
 - a) 日 時：平成23年6月26日(日)
 - b) 場 所：富山市民病院
 - c) テーマ：未定
 - d) 講 師：内部障害系研究会会員(呼吸器班)

③ 第1回 富山県呼吸・循環セミナー開催

- a) 日 時：平成23年11月20日(日)
9:00～15:30
- b) 場 所：未定
- c) テーマ：未定
- d) 講 師：内部障害系研究会会員(予定)

(2) 生活環境支援系研究会

- ① 研究活動
- ② 研修会開催
 - a) 日 時：未定
 - b) 場 所：サンシップとやま
 - c) テーマ：「福祉用具の活用方法」(仮)
 - d) 講 師：未定
- ③ 調査支援活動

(3) 神経系研究会

- ① 研究活動 毎月第4木曜日(勉強会, 症例検討会, 症例発表支援)
- ② 研修会開催
 - a) 日 時：平成23年11月27日(日)
 - b) 場 所：未定
 - c) テーマ：「Constraint induced movement therapy (CI療法)」
 - d) 講 師：佐野恭子(兵庫医療大学作業療法学科 講師 作業療法士)

③ ケース・スタディー開催

- a) 日 時：平成23年9月10日(土)
14:00～17:00
- b) 場 所：八尾総合病院
- c) テーマ：「片麻痺の評価と治療」(仮)
- d) 講 師：仲川 仁(山田温泉病院)

(4) 骨関節系研究会

- ① 研究活動 毎月第3月曜日
(勉強会, 症例検討)

② 研修会開催

- a) 日 時：平成24年2月20日(月)
19:00～21:00
- b) 場 所：八尾総合病院
- c) テーマ：未定
- d) 講師：骨関節系研究会会員

(5) 物理療法研究会

- ① 研究活動 学会等で発表, 勉強会
- ② 研修会開催(理学療法基礎系研究会共催)
 - a) 日 時：平成23年11月3日(木)
 - b) 場 所：富山医療福祉専門学校
 - c) テーマ：「DNIC (Diffuse Noxious Inhibitory Controls) を利用した疼痛抑制の概念ならびに ID ストレッチ」
 - d) 講 師：鈴木重行
(名古屋大学医学部保健学科 教授)
- ③ 学会発表
第46回日本理学療法学術大会・第27回東海北陸理学療法学術大会 他

(6) スポーツ系研究会

- ① 研究活動 毎月第3木曜日(勉強会):
富山医療福祉専門学校
- ② 研修会開催
 - a) 日 時：未定
 - b) 場 所：未定
 - c) テーマ：スポーツ障害への評価・アプローチ
 - d) 講 師：未定

(7) 教育管理系研究会

- ① 研究活動
- ② 研修会開催(日本理学療法士協会教育管理系理学療法研究部会主催)
 - a) 日 時：未定
 - b) 場 所：未定
 - c) テーマ：未定
 - d) 講 師：未定
- ③ 研修会企画

(8) 理学療法基礎系研究会

- ① 研究活動
- ② 研修会開催(物理療法研究会共催)
 - a) 日 時：平成23年11月3日(木)
 - b) 場 所：富山医療福祉専門学校
 - c) テーマ：「DNIC (Diffuse Noxious Inhibitory Controls)

を利用した疼痛抑制の概念ならびに
IDストレッチ」

d) 講師：鈴木重行

(名古屋大学医学部保健学科 教授)

3. 理学療法士講習会「応用編」開催

(日本理学療法士協会主催)

a) 日 時：平成23年10月1日(土)

10:00～18:00

平成23年10月2日(日)

9:00～16:00

b) 場 所：富山医療福祉専門学校

c) テーマ：筋・筋膜性可動域制限と痛みに対する治療

d) 講師：竹井 仁(首都大学東京健康福祉学部理学療法学科)

来間 弘展(首都大学東京健康福祉学部理学療法学科)

荒木 茂(石川県リハビリテーションセンター)

4. 学会発表等の支援活動

[学術資料部]

1. 学術誌「みんなの理学療法 vol.24」企画および編集・発行
2. 学術誌の内容について検討(掲載原稿の選考方法)
3. 学術資料保存についての検討
4. 学術資料の整理および貸し出し・閲覧
5. 会議6回

〈教育局〉

[研修管理部]

1. 研修管理

(1) 士会における生涯学習システムの検討

(2) 新人教育、生涯学習の推進、啓発

(3) 受講証の発行

2. 教育・研修計画発行

(1) 新人教育プログラム単位認定

(2) 平成24年度教育・研修計画の発行

3. 理学療法士講習会(基礎編)の準備・企画

平成24年度富山県内で開催の日本理学療法士協会理学療法士講習会の準備・企画

[卒後教育部]

1. 研修事業

(1) 卒後教育研修会1開催

① 日 時：平成23年6月19日(日)

9:00～12:10

② 場 所：富山医療福祉専門学校

③ テーマ：

a. 「生涯学習と理学療法の専門領域」

b. 「世界の理学療法」

④ 講師：

a. 寺田 一郎(厚生連高岡病院)

b. 未定 PT

(2) 標準理学療法研修会1開催

① 日 時：平成23年8月28日(日)

9:00～16:00

② 場 所：富山医療福祉専門学校

③ テーマ：「吸引基礎講習会」

④ 講師：Dr、Ns、PT×3

(3) 標準理学療法研修会2開催

① 日 時：平成23年9月11日(日)

9:00～12:10

② 場 所：富山医療福祉専門学校

③ テーマ：「内部障害におけるリスク管理」

④ 講師：未定 PT2名

(4) あすなろ研修開催

① 日 時：平成23年10月23日(日)

9:00～16:00

② 場 所：滑川市民交流センター

③ テーマ：

a. 「職業倫理・管理運営」

b. 「人間関係および労働衛生」

c. 症例研究発表会

④ 講師：

a. 教育管理系研究会 PT

b. 教育管理系研究会 PT

c. 座長：卒後教育部企画委員

アドバイザー：専門領域研究会員

(5) 標準理学療法研修会3開催

① 日 時：平成23年11月6日(日)

9:00～12:10

② 場 所：富山医療福祉専門学校

③ テーマ：「中枢神経疾患の画像の見方」

④ 講師：未定 Dr、PT

(6) 卒後教育研修会2

① 日 時：平成24年3月18日(日)

9:00～12:10

② 場 所：富山県立中央病院

③ テーマ：

a. 「生涯学習～専門・認定理学療法士へ～」

b. 「継続学習のためのグループディスカッション」

④ 講師：中島 隆興(富山県立中央病院)他
卒後教育部員3名

[卒前教育部]

1. 研修会事業①

「学生指導にいかすコミュニケーションスキル」

日 程：平成23年7月3日(日) (予定)

場 所：未定

講 師：真生会富山病院 臨床心理士 坂井朋子
(予定)

2. 研修会事業②

「理学療法教育方法論—シンポジウム：
臨床実習の現状と課題」

日 程：平成23年12月4日(日) (予定)

場 所：未定

講 師：未定 県内各施設のPT4名に依頼予定

3. 平成24年度研修会の企画

日 時：平成23年11月24日

場 所：富山県高志リハビリテーション病院

〈職能局〉

[業務推進部]

1. 第7回理学療法部門代表者会議開催

(1)日 時：平成24年3月16日(金) 14:00～

(2)場 所：サンシップとやま

2. 理学療法業務に関する情報収集

3. 医療・介護保険部主催研修会の準備・運営協力

[医療保険部]

1. 研修会開催

(1)日 時：平成24年3月11日(日)

(2)場 所：富山医療福祉専門学校

(3)テーマ：同時改定に向けた医療・介護の
連携を促す(仮)シンポジウム形式の予定

(4)講 師：未定

2. 医療保険制度に関する相談窓口

[介護保険部]

1. 介護保険制度および医療保険部との研修会の
為の情報収集・整理

2. 介護保険制度等に関する小研修会

(1)日 時：平成23年8月5日(金)

19:00～20:30

(2)場 所：富山市総合福祉センター

(3)テーマ：現状をみんなで喋らんまいけPart6

(4)対象者：士会員

3. 医療保険部との共同開催による研修会
(シンポジウム形式の予定)

(1)日 時：平成23年11月頃

(2)場 所：未定

(3)テーマ：同時改定に向けた医療・介護の連
携を促す(仮)

〈公益事業局〉

[福祉事業部]

1. 「第10回介護老人福祉施設リハビリテーション
研修会」企画と実施

(1)日 時：平成23年11月9日(水)

(2)場 所：未定

(3)テーマ：未定

2. ノーマライゼーション推進事業の企画と実施

(1)「第30回富山市民ふれあい広場」参加

①日 時：平成23年9月中旬

②場 所：富山駅北親水広場(予定)

(2)その他、同様のイベントに参加

3. 講師派遣事業：市町村関連団体や各種団体の
要請に応じ対応

[保健事業部]

1. 健康増進に関する小研修会開催

(1)日 時：平成23年10月1日(土) 14時より

(2)場 所：サンシップとやま(予定)

(3)テーマ：肩こり・腰痛予防のための運動指導
～ストレッチボールを用いた運動を
中心に～(仮題)

(4)講師：竹田 伊希子(富山県済生会高岡病院)他

2. 身障・各種スポーツ活動支援

(1)各種競技団体からのPT要請対応・窓口

(2)各種スポーツの準備などを含めた支援・援助

[広報部]

1. 理学療法週間事業の企画と実施

(1)日 時：平成23年7月24日(日)

10:00～15:00 ※予定

(2)場 所：イオンモール高岡 イオンホール

2. 広報誌「きときとPT」No.6発行とNo.7企画・
作成

配布先(高校, 保健センター, 病院, 施設,
県士会員)

発行部数1000部

3. 「いきいきとやま・第24回健康と長寿の祭典」
の出展(相談コーナー)企画・実施

(1)日 時：平成23年10月4日(火)～

10月5日(水) ※予定

(2)場 所：富山県民会館

[調査部]

1. 土会活動に関する調査ならびに資料の管理
2. 他土会の動向、定点調査等

〈事務局〉

[事務部]

1. 事務局の管理
2. 総会・理事会・役員会の運営
3. 各種定型書類整理
4. 郵便物郵送・管理
5. 士会員の異動、登録などの管理
6. 士会員の慶弔、保険に関する業務
7. 渉外活動、連絡調整

[財務部]

1. 財産・財務管理
2. 会員証による会費徴収の導入推進

[組織部]

1. 新法人化対策
2. 組織の見直し
3. その他

[福利厚生部]

1. 新入・転入会員歓迎会
 - (1) 日 時：平成23年6月19日(日)
 - (2) 場 所：富山医療福祉専門学校
2. 北陸三県理学療法士交流会（福井県士会担当）：
日は未定
3. 県士会員交流会（地区対抗ボウリング大会&交流会）
 - (1) 日 時：平成23年10月15日(土) or
22日(土)
 - (2) 場 所：未定
4. 富山県士会新年会
 - (1) 日 時：平成24年1月14日(土)
 - (2) 場 所：未定
5. 会議

[情報管理部]

1. 会報の発行(平成23年6月,9月,平成24年1月,3月)
2. 年報発行（平成23年9月）
3. 会報及び年報の発送
4. 土会ホームページの企画・管理・運営

〈委員会〉

[選挙管理委員会]

[表彰審査委員会]

- ・表彰に関する事項の検討

[地区連絡会]

- ・地区連絡会議、研修
新川・中部
富山北部・富山中央・富山南部
高岡・砺波

〈特別事業〉

[東海北陸理学療法学会大会]

第27回東海北陸理学療法学会大会の開催

- (1) 会 期：平成23年10月29日(土) 30日(日)
- (2) 会 場：富山国際会議場
- (3) テーマ：こころをほぐして医療の源流を探る
- (4) 大会長：田村 茂(地域リハビリ支援室・
タムラ)

[40周年記念事業準備委員会]

[訪問リハビリステーション検討委員会]

[法人化準備委員会]

平成23年度一般会計収支予算(案)

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

収入の部

単位：円

科 目	細 目	予 算	前年度予算	増 減	備 考
会費収入		4,915,000	4,657,500	257,500	
	正会員会費	4,635,000	4,365,000	270,000	会費：9,000 × 475名 新入会員：9,000 × 40名
	入会金	100,000	112,500	－ 12,500	2,500 × 40名
	賛助会員会費	180,000	180,000	0	賛助会費：30,000 × 6施設
事業収入		1,902,500	2,575,000	－ 672,500	
学術局	専門領域研究部事業	1,110,000	767,500	342,500	研修会参加費：1,010,000 寄付金：100,000
	学術資料部事業	60,000	60,000	0	出版広告掲載費：60,000
教育局	卒前教育部事業	30,000	525,000	－ 495,000	研修会参加費：30,000
	卒後教育部事業	150,000	0	150,000	研修会参加費：150,000
職能局	業務推進部事業	0	15,000		
	医療保険部事業	20,000	20,000	0	研修会参加費：20,000
	介護保険部事業	0	0		
公益事業局	広報部事業	0	0	0	
	福祉事業部事業	200,000	200,000	0	リハビリテーション研修会事業 参加費：200,000
	保健事業部事業	15,000	15,000	0	小研修会参加費：500 × 30名
特別事業	富山県理学療法 学術大会	0	300,000	－ 300,000	
事務局	福利厚生部事業	317,500	672,500	－ 355,000	北陸三県交流会：0 県士会交流会：130,000 新人歓迎会：37,500 新年会費：150,000
	情報管理部事業	0	0	0	県士会会報広告料：0
	地区連絡会	0	0	0	
助成金		200,000	200,000	0	協会委託費
雑収入	利息	1,000	1,000	0	
	その他	10,000	10,000	0	メディカルオンライン
当期収入合計(A)		7,028,500	7,443,500	－ 415,000	
前期繰越収支差額		1,900,000	2,000,000	－ 100,000	
収入合計(B)		8,928,500	9,443,500	－ 515,000	

支出の部

単位：円

科 目	細 目	予 算	前年度予算	増 減	備 考
学術局事業費		1,630,500	1,815,500	- 185,000	
	専門領域研究部	1,126,500	1,318,500	- 192,000	部会会議費：25,000 研究会事業費：1,101,500
	学術資料部	504,000	497,000	7,000	印刷費：400,000 通信費：70,000 会議費：24,000 謝礼：10,000
教育局事業費		691,000	943,500	- 252,500	
	卒前教育部	160,000	475,500	- 315,500	研修会：150,000 会議費：10,000
	卒後教育部	436,000	373,000	63,000	あすなろ研修：108,000 卒後教育研修会：78,000 標準理学療法研修：225,000 会議費：25,000
	研修管理部	95,000	95,000	0	管理費：15,000 事業費：80,000
職能局事業費		338,500	271,250	67,250	
	業務推進部	140,500	108,250	32,250	活動費：8,000 管理者会議費：120,500 会議費：12,000
	医療保険部	123,000	113,000	10,000	消耗品：6,000 研修会事業費：117,000
	介護保険部	75,000	50,000	25,000	会議費：35,000 小研修会：30,000 研修会：10,000
公益事業局事業費		745,500	765,500	- 20,000	
	福祉事業部	200,000	200,000	0	会議費：30,000 ノーマライゼーション推進事業：20,000 リハビリテーション研修会事業：150,000
	保健事業部	76,500	87,500	- 11,000	小研修会事業費：76,500
	広報部	399,000	408,000	- 9,000	理学療法週間事業費：166,000 会議費：40,000 健康と長寿の祭典事業費：23,000 広報誌：170,000
	調査部	70,000	70,000	0	会議費：10,000 通信費：40,000 定点調査費：20,000
特別事業費		10,000	480,000	- 470,000	
	17回富山県理学療法学会大会	10,000	480,000	- 470,000	会議費：10,000
事務局管理費		2,723,980	3,326,680	- 602,700	
	事務部 財務部	1,150,800	1,239,100	- 88,300	会議費：100,000 通信費：300,000 Bネット契約：18,900 活動費振込料：10,000 役員活動費：250,000 印刷・消耗品費：300,000 保険料：133,900(260×515名) 公衆衛生学会協賛金：20,000 事務部会議費：18,000(3,000×6回)
	情報管理部	931,680	1,023,680	- 92,000	印刷費：762,000 通信費：105,000 消耗品費：3,000 会議費：60,000 雑費：1,680
	組織部	10,000	10,000	0	会議費：10,000
	福利厚生部	430,800	868,200	- 437,400	新人歓迎会費：64,100 会議費：15,000 北陸三県交流会費：0 新年会費：157,600 県士会交流会費：194,100
	表彰審査委員会	5,700	5,700	0	通信費：1,200 会議費：4,500
	選挙管理委員会	0	5,000	- 5,000	会議費：5,000
	訪問リハビリステーション検討委員会	10,000	-	10,000	会議費：10,000
	法人化準備委員会	10,000	-	10,000	会議費：10,000
	地区連絡会	175,000	175,000	0	会議費：25,000×7地区
繰入金支出	特別会計繰入金	980,000	880,000	100,000	学術大会繰入金：440,000 記念事業繰入金：500,000
予備費		1,809,020	961,070	847,950	
当期支出合計(C)		8,928,500	9,443,500	- 515,000	
当期収支差額(A - C)		- 1,900,000	- 2,000,000	100,000	
次期繰越収支差額(B - C)		0	0	0	

平成23年度特別会計(1)収支予算(案)

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

収入の部

単位：円

科 目	細 目	予 算	前年度予算	増 減	備 考
繰入金		440,000	440,000	0	
	東海北陸理学療法学会大会	440,000	440,000	0	23年度分
事業収入		7,160,000	0	7,160,000	
	東海北陸理学療法学会大会	7,160,000	0	7,160,000	参加費：4,360,000 展示料：640,000 広告料：200,000 協賛：400,000 助成金：1,560,000
雑収入	利息	1,000	1,000	0	
当期収入合計(A)		7,601,000	441,000	7,160,000	
前期繰越収支差額		2,054,000	1,744,000	310,000	
収入合計(B)		9,655,000	2,186,000	7,469,000	

支出の部

単位：円

科 目	細 目	予 算	前年度予算	増 減	備 考
事業費		9,655,000	110,000	9,545,000	
	学会準備費	9,655,000	110,000	9,545,000	会議費：58,000 会場費：2,800,000 講師料：426,000 印刷費：1,750,000 運営費：1,854,000 旅費：330,000 事務費：1,650,000 予備費：787,000
当期支出合計(C)		9,655,000	110,000	9,545,000	
当期収支差額(A - C)		- 2,054,000	331,000	- 2,385,000	
次期繰越収支差額(B - C)		0	2,076,000	- 2,076,000	

平成23年度特別会計(2)収支予算(案)

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

収入の部

単位：円

科 目	細 目	予 算	前年度予算	増 減	備 考
繰入金		500,000	440,000	60,000	
	記念事業	500,000	440,000	60,000	平成23年度
事業収入	40周年記念	-	-	0	
雑収入	利息	1,000	1,000	0	
当期収入合計(A)		501,000	441,000	60,000	
前期繰越収支差額		2,647,000	2,206,000	441,000	
収入合計(B)		3,148,000	2,647,000	501,000	

支出の部

単位：円

科 目	細 目	予 算	前年度予算	増 減	備 考
事業費		36,000	36,000	0	
	40周年記念	36,000	36,000	0	会議費：500 × 6人 × 12回
当期支出合計(C)		36,000	36,000	0	
当期収支差額(A-C)		465,000	405,000	60,000	
次期繰越収支差額(B-C)		3,112,000	2,611,000	501,000	

研 修 会 報 告

★ あすなろ研修会開催



講演2の浦川先生

平成22年10月24日（日）、滑川市民交流プラザにて、卒後教育部主催による「あすなろ研修会」が開催されました。

講演1では、黒部市民病院の島倉聡先生より「理学療法士法・作業療法士法および関連法規等について」をテーマにご講演いただきました。理学療法士法・医療法等、医療制度の歴史、介護保険法、医療事故という内容について分かりやすく説明していただきました。理学療法を行う上での定義を改めて知ることができ、また日常業務での記載や報告等の大切さを再確認する良い機会となりました。

講演2では、富山大学の浦川将先生より「学問としての理学療法と研究方法論」をテーマに、研究の進め方、モチベーションの大切さについて脳神経科学からの見地と併せてご講演いただきました。自らの研究を題材に、研究の実践的な進め方を提示していただき、研究に対し身近に感じることができ、興味深い内容でした。

症例研究発表会では、13演題の発表があり、多くの新人理学療法士の参加がみられました。また、各専門領域研究会の先生方にアドバイザーとして参加していただきました。フロアからは質問や色々な視点からのアドバイスが挙げられ、発表者、参加者共に、症例についてさらに検討を深めることができたのではないのでしょうか。日々理学療法を遂行する中で、自らが行ったことの妥当性について評価し、検討する、この繰り返しが必要ではないかと思います。その中で、今回のように、多くの先生方の考え方や視点に触れる機会が得られたことは貴重な時間となったことと思います。

多くの先生方のご参加、ありがとうございました。なお、本研修会の開催にあたり、ご尽力いただきました先生方に感謝申し上げます。



症例発表の様子

★ 福祉事業部 第9回リハビリテーション研修会を開催

福祉事業部部長 廣 川 晃 彦

平成22年11月10日（水）に富山市の特別養護老人ホームあすなろの郷において第9回リハビリテーション研修会が開催されました。テーマを「摂食・嚥下障害について～起きて食べよう～」と題して、県内の介護老人福祉施設従事者36名が参加しました。講師には、歯科衛生士事務所ピュアとやま代表で歯科衛生士の精田紀代美先生、高志リハビリテーション病院管理栄養士の石崎訓子先生、富山労災病院言語聴覚士の山崎恵莉奈先生、富山協立病院理学療法士の染谷明子先生のお招きして研修会を実施いたしました。

当日はあいにくの雨でしたが、研修会を受講された方々は、皆さん熱心に講義に聞き入っておられました。時折ジョークを交えた講義などは、受講者を飽きさせることもなく、回収したアンケート結果からも、「大変よかった」、「すごくためになった」という意見が多く受講者の方々も満足していたようでした。



実技指導する染谷先生



リハビリテーションスタッフのための

吸引基礎講習会に参加して

富山労災病院 行 澤 慶

平成22年4月30日に厚生労働省より、リハビリテーション関連職種と臨床工学技士の喀痰等の吸引をそれぞれ安全かつ適切に実施することを踏まえ、吸引を合法化するという通知がありました。そこで、平成22年11月21日、クロスランドおやべにおいて吸引に必要な知識と技術を習得した上で安全かつ効果的な手技が実施できるよう、呼吸ケア研究会主催による吸引基礎講習会が開催されました。この吸引基礎講習会の参加者は200名近くに至り、理学療法士だけではなく作業療法士や言語聴覚士の方々も数多く参加されました。講師は厚生連高岡病院医師の廣田幸次郎先生や富山大学附属病院看護師の若林世恵先生、理学療法士の滝田正樹先生、嶋先晃先生、池田忍先生、㈱日本シャーウッド様で、それぞれ吸引に必要な基礎知識・技術を講義していただきました。

私は排痰訓練などリハビリ中に患者が吸引を必要とする場面をよく経験しました。そのためリハビリ中における患者の換気状態管理のために吸引技術習得の必要性を感じ、この講習会に参加しました。講習会では、吸引に必要な呼吸生理や解剖などの基礎知識、実際の吸引手技やそれに伴うリスク管理についてなど、臨床での事例も踏まえながら先生方に講義していただきました。私自身、吸引に関しての講義を受けるのは初めてでしたが、この講習会にて吸引に関する基礎知識は学べたと思います。しかし、吸引は危険性が高い行為の一つであり、簡単に習得できるものではないと思います。私は今後、職場にて熟練した看護師による実技指導等の講習を受けることが義務付けられていますが、実践できる吸引の技術を習得した後、必要に応じて吸引を実施していきたいと思っています。



運営スタッフの皆さん

この講習会では急性期・回復期・維持期の様々の病院、施設から沢山の参加者が受講されており、すでに多くの職場が吸引に対して取り組んでいることがわかりました。リハビリテーション関連職種の喀痰等による吸引が認められた以上、責任もついてまわります。今この患者に吸引が必要な状態なのか見極め、必要ならば安全かつ適切に行なえるよう知識・技術を習得し、チーム医療の推進に役立てればと思います。



講演者 若林先生



管理運営研修会 「リハビリテーション部門の

マネジメント」を開催して

厚生連高岡病院 石 吾 卓 也

平成22年11月26日(金)・27日(土)、富山県民共生センター サンフォルテにて、管理運営研修会「リハビリテーション部門のマネジメント」～今求められるマネジメント～が開催され、北海道から宮崎まで全国各地から理学療法士36名が参加されました。

研修会1日目は、「管理学総論」に保村譲一氏、「経営への参画」に森本榮氏、「部門の管理運営」に伊藤隆夫氏、「職場管理」に山崎裕司氏、「リスクマネジメントからセーフティ、クオリティマネジメント

へ」に渡辺京子氏より講演して頂き、2日目は「職場管理」と「リスクマネジメント」をテーマにグループワークが行われました。

今回の参加者は経験年数が10年に満たない方も多く、理学療法士の職域拡大に加え、若い理学療法士が急増する中で、経験年数が少なくても部門を管理する立場になっている方々が増えている状況を反映していると思われました。

本研修会は演習の時間を多く取っていることが特徴です。様々な経験年数の方を振り分けて構成されたグループワークでは、日常業務で起こり得る具体的な事例を基に、若い方から豊富な経験を持つ方まで意見交換を行いながら対策や解決方法を話し合い、講義以外にも様々な情報交換ができたようでした。また、危険予知トレーニングなどのプログラムを実際に行うことで、自らの職場で生かせる情報や経験が多く得られた研修会となったようです。

講演の内容は年々変化する法制度などに応じて更新されていますので、その時々職場・社会環境に応じた内容が学べる研修会です。興味のある方は是非ご参加下さい。



スポーツ研究会

杉野脳神経外科病院 奥野 清 孝

平成22年12月5日(日)富山医療福祉専門学校においてスポーツ系研究会主催の学術研修会が開催されました。講師には昨年にも講演していただいた新潟医療福祉大学 医療技術学部 亀尾徹先生をお招きし、「～スポーツ障害に対するクリニカルリーズニング～ 投球障害に対するアプローチ」をテーマに講演が進められました。

今回の研修会は2部構成となっており、1部ではクリニカルリーズニングの基礎・復習について、2部では実技を主体に肩関節の機能的解剖を含めた投球障害に関連した評価・治療技術について行いました。1部では理論や手技を適応する際の危険を軽減することや患者、家族、介護者などとの共同的推論が必要であること、患者の持つ身体的問題点と同時に、「人」



投球フォームを科学する

を理解することが重要であるという臨床実践の基本となる考え方について説明いただき、とても興味深いものでした。2部では肩関節自動運動テストや他動運動・副運動の手技、先生の経験を交えながらボールの持ち方や正しい投球動作などの実技を行いました。普段から高校生と関わる事が多



亀谷先生による評価治療の
デモンストレーション

い私にとっては、とても参考になることばかりで、理学療法介入が難しい故障後の生徒に対するアプローチに進め方に関してはすぐに実践できるものでした。

今回の講演では実際の現場での限られた情報から必要な情報を厳選し、原因を探りながら理学療法を進め再評価していく過程についての重要性を知る事ができました。より質の高い理学療法が実施できるようこれらのことを今後活かしていきたいと思います。

PTとして地域を支えるために

～ 過去から現在、そしてこれから ～

パート2

森山：なぜPTの需要があるかについて聞いたかという、今、訪問リハステーションの話があるので、需要が実際にあるのか？ということを知りたいからです。



平田 先生

平田：本人の思いもあり、需要はないとは言えませんが、本当に訪問リハの役割かという微妙なケースもあります。

森山：たくさんの需要があって、回りきれない程ですか？ちょっと興味があるのですが…。

堀尾：南砺市は稼働日数20日で月850件、対象者200名程で、まだ右肩上がりです。必要度に関して言うと、2割くらいは終了していい方たちも、やっぱり継続しなければならず、続けている現状があります。デイケアでも同じことが言えるそうです。しかし8割の方に訪問リハが必要で、まだ増えているということは、たぶん現状として需要はまだあると思います。ニーズ的には、訪問看護ステーションの6割くらいは、訪問リハで賄える内容だと考えています。あとは働きかけの問題だと思います。

森山：南砺市は地域の特性として、通所系のサービスが少ないイメージがあります。

堀尾：ケアマネによっては、お風呂＝デイサービスでパッケージングされていたこともあり、一概には言えません。

西川：訪問をどこで終了すればいいのか、終了判定がありません。そのため、一度受け入れると本人が「もういいわ」と言うまで続いてしまいます。こちらからデイを勧めても、行きたくないという方も多いです。外来リハの制限ができてから、若い方が訪問リハに多く、そういう方はデイに行きたがりません。需要はあるけれども、空き時間が無く断らざるを得ない状況です。

以前は訪問看護で看護師がリハビリを行っていましたが、その後、私が訪問リハの専属になりました。一人はなかなか大変で休むこともできません。もう少しPTが増えて余裕を持れば、地域のためになると思いますが、なかなか人を増やせない状況があります。

森山：需要があるのは理解できましたが、終了をどこにすればいいのでしょうか？

必要性はわかりますが、徐々に利用者も年をとるので、終了できなければ、エンドレスになってしまいます。それでいいのでしょうか？

福江：行政的に、基準みたいなものはないのでしょうか？どんな人たちが需要の中に入るのでしょうか？家族がしてほしいというから？ケアマネ？

森山：訪問と通所で同じことをやるのはダメ。そのくらいの縛りです。

堀尾：日中起きて通えるなら、通所に切り替えたほうが人間らしい生活という感じはします。

森山：そうですね。それにしても、いつ終了ってことになるのでしょうか。例えば、評価して目標・プログラムを立てて終了ってことには、

あまりならないですか？

堀尾：ならないですね。やり方として、ひとつは「期間を区切って訪問をしましょう」という考え方があります。在宅で落ち着いたら終了、という約束をして行う場合です。

もうひとつの考え方としては、訪問リハステーションや訪問リハだけでやる場合は、ゴールを定めるように言われてきました。しかし、一般的に訪問看護は終末期までみます。そのため、病院からの訪問でも、終末期まで見ており、また亡くなられた方に「おくやみ訪問」をし、サービスが良かったかなども聞いています。元来、訪問看護ステーションで行うなら、終末期までもあってもいいと思います。ただ、リハの必要性は、考えなければならないと思います。



西川 先生

西川：本来我々は、医師の指示で行っているはずですが、しかし指示書を書くとき、医師は利用者を見ているのか？と感ずることがあります。私たちは月1回、訪問結果を主治医とケアマネに報告しています。

だから利用者の変化がわかるはずにも関わらず、指示書は一緒のままです。そこに疑問を感じます。もっと医師が利用者のことを考えて、訪問などに関して、指示や指導を行っていただければいいが、そういったことは今のところない状態ですね。

福江：訪問リハの中にも2つあると思います。ひとつはある時点まで来たら終了してもいい状態のものと、もうひとつは関節拘縮の予防などです。これはエンドレスですよ。高齢者で週に数回の訪問リハで、機能維持が精いっぱいとなると、エンドレスになってしまいます。そのへんはどうなのかなあ、とは思っています。

森山：ちなみに、施設で「もう通わなくていいでしょう」と判断される人は、実際にいるのでしょうか？

福江：もともとデイサービスはリハビリの施設ではないので、通ってこられる人は元気です。こちらの理由やPTの判断で断ることはできません。元気がない方は、お亡くなりになるか、病院に入らなければならない状態です。機能訓練としては、来られたときに職員全員の働きかけで、生活能力の維持を図るようにしています。

森山：生活を維持するためには、来てもらうのが前提ですね。

福江：来られる限りは通っていただいたほうがいいと思います。身内の話になりますが、ずっと家にいる私の母と、デイに通う90才の方とでは、全然元気さが違います。家の中で閉じこもっているより、絶対に出てきたほうがいいし、その場所が必要だと思います。

堀尾：介護保険に関しては、基本的に本人の意思でしょう。やはり断れないのではないですかね。

森山：通所リハビリでは、「もう通わなくていいでしょう」と判断される人はいらっしゃるのでしょうか？

飯野：おられますね。どこのデイケアでも一緒だと思いますが、半分はデイサービスと同じ感覚です。断れないので、来られる方は受け入れていますが、機能訓練というよりも来ることがリハビリという方も結構おられます。だんだんお元気になってきて、デイケアではなくデイサービスの方がいいのではないかという人もおられます。

過去に1人だけ、どうしても社会復帰した方がよいという若い方がいて、その方は手間暇かけて歩行を獲得し、追い出すように復帰していただいた経験があります。これが理想、本当のデイケアの姿なんだろうという経験をさせていた

だきました。若いからこそ、仕事があったからこそだと思いますが…。

福江：そもそも50代の方が、デイケアしかりハビリができないことに、すごく問題を感じます。そのような方には、もっと違う形のリハビリテーションのシステムがあるべきだと思います。私の施設にも60代の塗装業の方がおられ、自分から卒業していかれた経験があります。他にも何人か卒業されましたが、こちらの働きかけとしては、利用者さんとの会話が必要なんですよ。これができるから、してみたらどうですか？と言って、どんどん自分でやっていく人は、卒業していけます。

森山：通所は維持するところ。ただ、デイケアからデイサービスへスタイルを変えても、やっぱり来てくださいというのは、維持した方がいいのでしょうか？

飯野：やはり当施設も経営の管理上、定員まで人を受け入れなさいと言われます。デイサービスでいいのでは？という方まで全部入られた結果、また同じ問題が繰り返される状況です。

堀尾：最初の契約の問題はありますよね。あと馴染みができたら、無理でしょう。

飯野：情がうつるとだめですねえ。今更「来なくていいです。」とは言えません。

森山：専門職が生活とサービスの一連の流れの中で、どこに関わっていくのか。先程、堀尾先生が言われていましたが、訪問看護ステーション

は終末期までみる、その中に一定期間リハがある、と言うならわかりますが、その話では、訪問リハステーションというリハビリの専門職だけがいる状態は、おかしいのではないかと思います。在宅を支えるスタッフ軍団がいて、リハビリをする職種がいて、終末期を見る人がいてという流れの中に働きかけていくという形が、良いのではないかと感じるのですが。

福江：たくさんのスタッフがいて、うまくポジションチェンジをしながら行えたらいいと思います。

森山：一法人の中に様々なスタッフがいて、うまく連携し、そこで終末期まで全部見るという方が、家族や本人にとって一番いいのではないのでしょうか。

福江：その中心に医師がいるべきだと思います。医師がいて、きちんと調整をすべきだと思います。医療が介護に利用者を託して、後はそちらで対応しなさいということ自体がかなり強引だし、問題だと思います。

堀尾：実際には医師がいるべきですが、今は医師の判断を訪問看護師が仰いでいるというのが現状です。医師は忙しすぎて、これ以上負担をかけにくい職種だと思います。その分、看護師がうまく医師にフィードバックしています。チームで行うときは、そういうことも必要なんだと思います。私は、訪問看護ステーションの中にリハビリがあるかたちが一番いいと思います。

森山：今医師と連携を取っているのは、ほとんどが看護師さんですね。

医療の視点・・・回復期から、医師が「こんな生活」とオーダーする感じで、モニタリングまで医師が関わるんでしょうか？

堀尾：医療の判断を求められる時や、サービスの的に集中的に行う必要がある場合などには医師も入ります。



森山：訪問をしていて、直接医師に連絡をとることはあるのでしょうか？

西川：ほとんど無いですね。

平田：状態が変わりやすい人は、看護師も必ず一緒に関わるので、医療的な判断が必要な場合は現状報告を、看護師を通じて行っています。

森山：実際には、訪問看護師が連携をとっている現状があるのですね。

平田：長い経過の方はどうしても看護の必要度が上がる場合が多いので、役割がリハビリから看護へシフトしていくことが多いです。

西川：2割くらいが、看護師と連携してやっている感じです。そういう場合は医師と連携を取っていますが、その他は単独が多いです。主治医の顔も知らない、ということもよくあります。開業医さんは知っていますが、病院はほとんどわかりません。

森山：先程、装具の話も出ていましたが、装具について主治医に相談するのは誰なのでしょう？

福江：私はご家族に、お話しています。家族とかかりつけ医にお任せすると、自分の考えとはちょっと違った装具になってしまったことがあります。そんな経験があるので、慎重に対応する必要があると感じました。あと杖なども、病院の処方のまま、四点杖やサイドウォーカーを使っている方が多いです。杖を変えるにしても、病院の方からケアマネに話をしたほうが、話がうまく進むと思います。そういった面で、在宅での管理は難しいです。

森山：装具を作ってほしいという時に、皆さん、どうされていますか？最終的に医師が判断しますが、皆さんが一筆書いたりするのでしょうか？

飯野：一度書いて、医師と電話でお話して作り直したことはありました。こちらの考えをお伝えして、作り直されましたが、その人の状態を知っている人がチェックしているわけではないので、もうちょっと角度が欲しかったなということもありました。最近のケースでは、病院のデイケアと連携して作ったことがありました。医療機関付属のデイケアでは、スムーズに話が進むのでいいと思いました。

堀尾：チェックアウトにPTが付いていた方が、いいと思いますね。

福江：医療施設に付属している施設では、うまくいきますね。しかしただ「作って」だけでは、問題があります。



堀尾 先生

森山：まったく連携のないところだと、不安ですね。

福江：日頃連携もなく、突然医師に電話しても、相手もびっくりすると思いますね。

森山：なかなか連絡しづらい、ということもありますね。一般的に、受け入れはあまり良くないのでしょうか？

堀尾：ケアマネは、医者には言いにくいと言われます。どうするのか明確になっていないことについては、医師に言いにくいです。

福江：それでも、ケアマネを経由しないと、チームを壊すことになるので問題になります。PTのポジショニングは、とても重要だと思います。

森山：ケアマネが中心に動いているというのは、間違いないですね。

〈次号へ続きます〉

第27回東海北陸理学療法学会の進捗状況

準備委員長 城戸 智之

本学会大会の準備が進むに従って、その全容と方向性が次第に明らかになってきました。そして、多くの方々にご協力いただく中で、多くの方々にご参加いただきたいという思いが強くなってまいりました。今年の10月29日(土)と30日(日)の2日間、富山国際会議場での開催が待ち遠しく感じます。クール&ハートウォーミングな理学療法士が今日の、明日の臨床や地域で対象者の支えになれるようこの学会大会が役立つことを切に願います。以下、進捗状況です。

30日のランチョンセミナーでは、森岡周先生(畿央大学)にニューロリハビリテーションに関する講演をお願いすることになりました。現在、雑誌「理学療法」(メディカルプレス)に連載されています。

入門セミナーとして運動器に対する超音波診断の知識と併せてハンズオンセミナーによる実際の機器操作の体験、教育セミナーとして中枢神経障害に対する理学療法テクニックをプログラムしました。その他「がんのリハビリテーション」のセミナー、シンポジウムは「進歩充夢」とし、医療から在宅ケア、終末期における対応について各領域のシンポジストの方に提言をいただく予定です。

また、絶妙のタイミングで厚生労働省より、平成24年度の介護・医療保険改定についての指針や動向についての講演をしていただくことになりました。これは、大変注目すべき情報提供の場になると確信しています。特別企画としてプログラムします。

福井大会より優秀発表の表彰が設定されていますが、富山大会では大会期間中に最優秀賞、優秀賞、新人優秀賞等を選定し表彰する予定です。6月初旬が演題登録の時期となりますので、会員皆様の積極的なエントリーをお待ちします!!

最後に皆様へご協力のお願いです。会場で医療・福祉機器展示、図書の展示を予定しますので関連業者様にはこれからご案内いたしますが、皆様からも関連の業者様にお声がけいただければ幸いです。また、当学会大会ホームページを開設しております。富山県理学療法士会のページよりリンクされておりますので、時々ご確認ください。

「平成22年度新年会開催」

富山県高志通園センター 木内 彰

平成22年度富山県士会新年会を平成23年1月15日(土)に、「四季の肴・釜めし 岡万」で開催しました。雪が降り続き足元の悪く、44名と多くの先生方に参加いただきました。会場のいたるところで新年の挨拶や近況報告の声が聞かれ、終了の時間も忘れるほど盛り上がりました。

年々、福利厚生事業への参加者が減少し、メンバーの顔ぶれも決まっている中、今回のように幅広い年齢層の先生方に参加していただき、交流の機会を持てたことはとても有意義だった様に思います。福利厚生の事業の中で気軽にいろいろな先生方と話していただければ、それがきっかけとなり日頃の理学療法業務を円滑に遂行する手助けになると思っています。

今後、若年層の県士会員の皆様が参加しやすいように検討していきたいと思っております。皆様の積極的な参加をお待ちしております。



リレーエッセイ

管理職として思う事

富山県高志リハビリテーション病院 大野 愛美

今回、このような大変難しいテーマを頂き、何を書いていいかわからず、かなり悩みました。私自身、自分が管理職であるという自覚がありませんので、思う事といわれても何も出てきませんでした。

私の血液型は、B型です。気まぐれ、自己中心的、めんどくさがり、物事を深く考えない、というもっとも管理職として、不適切な性格です。管理の仕事より、患者さんと訓練しているほうがはるかに楽しく、充実していました。自分には、管理の仕事なんか向いていない、と思っていました。しかし、背後から、どんどん押し出され、気がつけば一番古い人間になっており、負けず嫌いで、納得がいかないことがあるとだまっちはいられない性格もあり、そうこうしているうちに管理の仕事をしていたという状況です。どうやら、「立場が人を変える」ということは本当のようです。

昨年、大流行した「もしドラ」、もう読まれた方もいっぱいいらっしゃると思いますが、これは、かなり勉強になりました。今まで、管理学、経営学などは、専門外としてほとんど興味がありませんでしたが、主人と長男（大学4年生です）から薦められ読みました。これを読みながら、「もし、リハビリテーション部のマネージャーがドラッカーのマネジメントを読んだら」と置き換えて考えることが多くありました。なかなか、この本の主人公のようにきっちりと整理することはできませんが、とりあえず、マーケティングをしようと思っています。あとは、こんな私についてきてくれる人を信頼し、みんなが仕事をしやすいようにすること、いい意味で、笑って仕事ができるようにサポートすること、かつ、私自身がケツの穴の大きい人間（福井 勉先生の言葉です）に成れるよう、努力していきたいと思っています。

事務局インフォメーション

- 職場の異動や自宅住所の変更等がある場合はお早めに異動届を事務局に提出願います。その際は出来るだけ書類を郵送でお願いします。
- 職場で会員のご結婚の予定がおわかりでしたら、事務局へご一報願います。事務局より祝電にて祝福させていただきます。

職能局の相談窓口

職能に対して、職能局では電話による相談を受け付けています。お気軽に何でもお尋ねください。
TEL (0765) 23-1294 FAX (0765) 23-1073 魚津市地域包括支援センター 森山まで
E-mail akira-moriyama@city.uozu.lg.jp

おしらせ

平成23年度士会活動における所属変更について

新春の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、この度は士会活動における所属の変更についてお知らせいたします。先日の士会オリエンテーションの中で、「士会員は2年目以降、各部に所属して士会活動を行う」とお伝えしましたが、来年度より「1～3年目までは福利厚生部・卒後教育部の協力部員として士会活動を行う」に変更することとなりました。協力部員とは部会の企画などに参加せず、その部が行う事業運営に参加する部員を言います。具体的には、交流会および新人プログラム対応研修会当日の準備・片付けなどです。

若年層の先生方が今後の理学療法業務を円滑に進めていくために、知識・技術、コミュニケーションスキルの向上を目指して積極的に士会活動に参加していただきたいと思います。

尚、不明な点がありましたら下記の方に連絡いただきたいと思います。

〈問合せ先〉

福利厚生部：木内 彰

富山県高志通園センター

TEL：076-438-5694

Mail：a-kiuchi@koshi-rehabili.or.jp

卒後教育部：中島 隆興

県立中央病院

TEL：076-424-1531

Mail：rihabiri@pref.toyama.lg.jp

士会活動(所属部)に関するアンケート調査の廃止について

今年度の第5回理事会（平成22年10月21日）におきまして、士会の会員増加に伴い部員数が充足され、これまで各部編成のために実施して参りました「所属希望部についてのアンケート調査」を廃止することが承認されました。

つきましては、平成23年度の部員編成は平成21・22年度に所属している部で引き続き活動して頂くこととなります。部員の管理は部長に一任されますので、部の所属に関するお問い合わせは下記の部長までお願い致します。

【事務局】	事務部長	宮原謙一郎(富山医療福祉専門学校)
	財務部長	徳田 裕(富山医療福祉専門学校)
	組織部長	島倉 聡(黒部市民病院)
	福利厚生部長	木内 彰(富山県高志通園センター)
	情報管理部長	中谷 郁(西能みなみ病院)
【学術局】	専門領域研究部長	仲川 仁(山田温泉病院)
	学術資料部長	杉谷 清美(射水市民病院)
【教育局】	研修管理部長	寺田 一郎(富山県厚生連高岡病院)
	卒後教育部長	中島 隆興(富山県立中央病院)
	卒前教育部長	高橋 武広(真生会富山病院)
【職能局】	業務推進部長	竹中 誠(アルペンリハビリテーション病院)
	医療保険部長	城前 美奈(かみいち総合病院)
	介護保険部長	村中 浩則(富山市社会福祉協議会細入支所)
【公益事業局】	福祉事業部長	広川 晃彦(富山労災病院)
	保健事業部長	竹田伊希子(富山県済生会高岡病院)
	広報部長	布上 大典(公立南砺中央病院)
	調査部長	柴田 孝博(市立砺波総合病院)

編 集 後 記

3月27日(日) 13:30～17:30糖尿病シンポジウムが国際会議場にて開催されます。室井滋さんのトークショーもあります。入場料無料ですので、興味がある方はホームページ等にて申し込みをして参加して下さい。(牧野)

2010年度の会報も早いものでこれが最終版となりました。来年度は当富山県士会担当の大イベント・東海北陸学術大会が行われます。情報も盛りだくさん紹介することとなるでしょう。この会報はこれからの予定をお知らせすることより、活動等の記録保存としての位置づけです。活動が無事に遂行することで精一杯とは思いますが、是非ご協力お願いします。(田村)

大量の雪を乗り越え、やっと春の訪れを感じられるようになってきました。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。私は、もうすぐ新年度を迎えるということで、また一つ先輩になることに責任が増す緊張感と楽しみな気持ちの両方を抱え、複雑な感じです。後輩指導とか全然自信ないけど、一緒に楽しく仕事できればいいな。(団)

どんなにデジタル化されても、読み・書き・計算・話す・聞くことは人間にとって絶対に必要なものだと思います。会報の原稿締め切りを聞き、期間を計算し、書き、読み直し、時には遅れる理由を話し…。日頃の仕事もアナログなので、7月には置いていかれそうです。(城戸)

春は、新しい出来事が始まる季節です。はたして今年は何があるのか。何かいい事があるとうれしいのですが、仕事が増える程度かも…。(中谷)